

○ 原子炉格納容器耐圧強化ベントラインの熱流動解析について

確認された事項

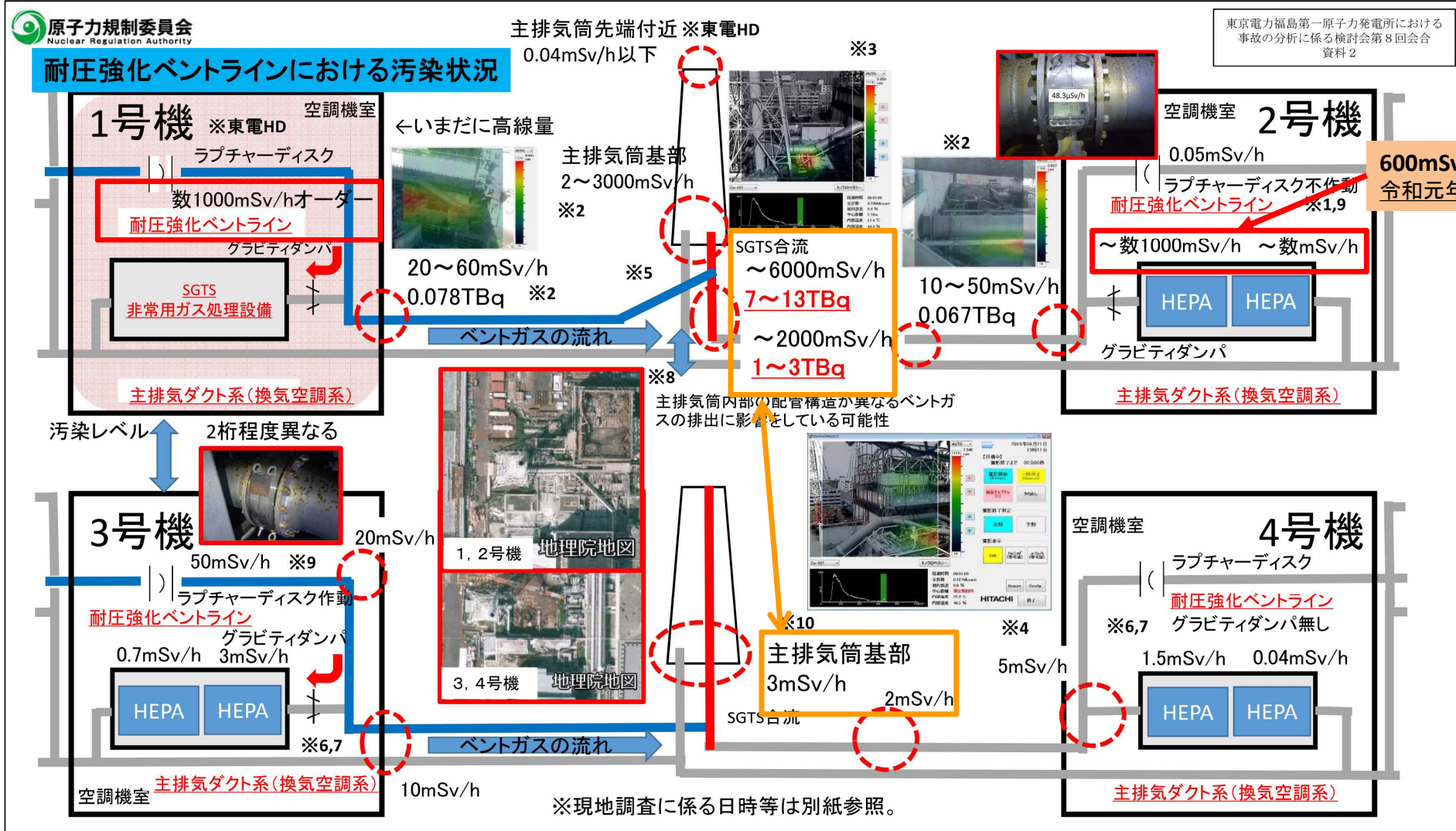
原子力規制庁における現地調査により、原子炉格納容器耐圧強化ベントラインについては、下記の点を確認された(2ページ目参照)。

- 1/2号機耐圧強化ベントラインは、3/4号機耐圧強化ベントラインに比べて汚染レベル(線量率)が高い(1/2号機は3/4号機に比べて2桁程度高い)。
- 共用スタック基部で1号機耐圧強化ベントライン(SGTS配管)と2号機耐圧強化ベントライン(SGTS配管)が合流しているが、2号機SGTS配管の方が汚染レベル(線量率)が高い。
- SGTSフィルタは、原子炉建屋側に比べてスタック側の線量率が高く、2号機に比べて1号機SGTSフィルタの方が汚染レベルが高い。



日本原子力研究開発機構において、熱流動解析によって上記の汚染状況等を再現できるか解析を実施。

資料4-1:原子炉格納容器耐圧強化ベント及びSGTSライン熱流動解析-1号機及び2号機の結果- を参照。



600mSv/h程度
令和元年8月2日測定

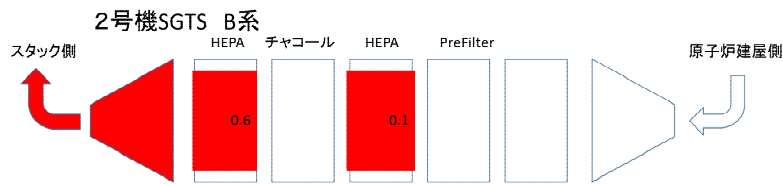
※第8回事故分析検討会資料から抜粋、一部加筆

○SGTSフィルタ部の線量測定結果



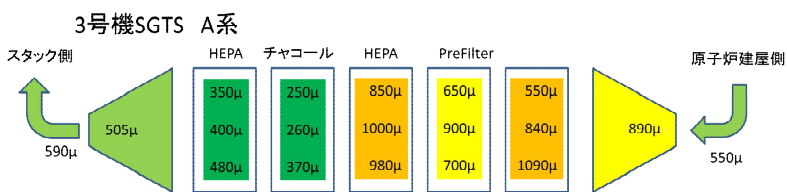
汚染レベルに数十倍以上の差が生じていると推定。その理由を調べる

■東電による測定(平成23年8月2日)
(SGTSトレイン付近を測定)
※現在の線量は減衰して半分以下になっている可能性が高い。

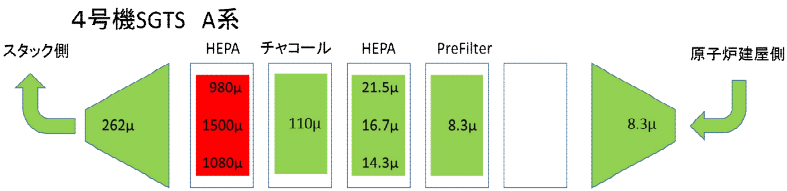
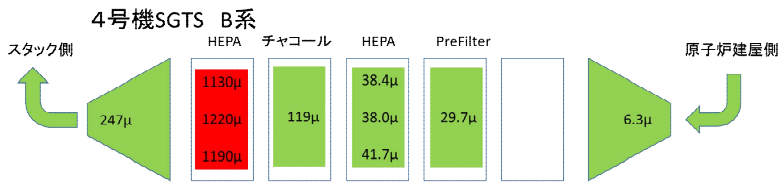


未測定

■原子力規制庁による測定*(令和元年8月2日)
※ガンマカメラ測定によるCs-137放射能からの推定



■原子力規制庁による測定(令和元年6月20日)



■原子力規制庁による測定(平成25年8月7日)

数値は線量当量率 (Sv/h) を表す